

社会・文化・教育



キーワード：慢性疾患（がんを含む）、自己管理、尊厳

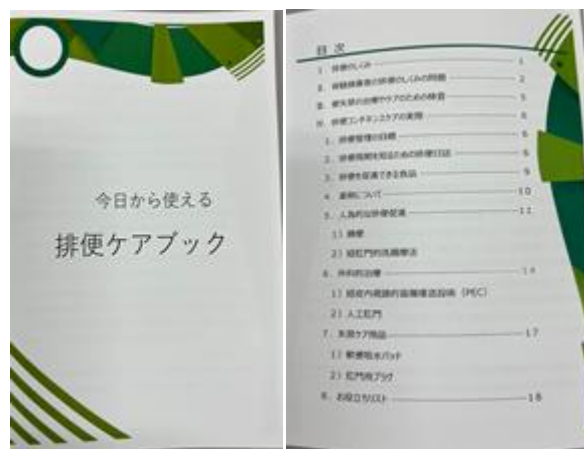
慢性疾患と共に生きる人の生活を支える看護

看護学部 看護学科 講師

志戸岡 恵子 SHIDOOKA Keiko

研究の内容 超高齢社会は多死社会の到来を意味します。死亡の原因で最も多いのは「がん」です。およそ4人1人ががんでなくなっています（2022年）。がんと診断されたときからの緩和ケアや尊厳ある看取りなどが重要とされています。看護師として、どのようにケアしていくのか考えてきました。そのような中、家族ががんとなり、私は家族なのか、看護師なのか葛藤した経験から研究し、役割コンフリクトであったことがわかりました。その研究の成果を家族看護に活かしています。また、突然のけがによって、障害を抱えてながら地域で生活している脊髄損傷者に着眼しました。脊髄損傷者は、損傷した部位によって障害は異なります。中でも頸髄を損傷すると、四肢麻痺がおり車椅子生活となり、排泄障害も見られます。

特に排便障害による便が漏れる状況は人としての尊厳や社会生活に影響します。頸髄を損傷した人を中心に排便に関する実態調査をしたところ、排便を自己管理しても便が漏れる人は75%（85人）漏れないは25%（29人）でした。「便が漏れる」と「漏れない」の自尊感情の平均得点で平均値の差の検定をおこなったところ、「便が漏れる」の方が有意に低かった($p=0.027$)。そこで自己管理のための排便ケアブックを作成しました。



産学連携・社会連携へのアピールポイント

頸髄損傷者の家族の方に排便ケアブックについての意見、感想をお聞きすると「webで公開してもらえると、他の人に紹介しやすいです。」などという意見がみられた。媒体を検討することで、社会貢献につなげることができます。

研究者総覧（志戸岡 恵子）

URL : https://gyoseki.setsunan.ac.jp/html/100001235_ja.html

メール : k-shidoo@nrs.setsunan.ac.jp

